

資料1 令和2年度 学校評価（職員自己評価）結果

＜評価点の基準＞ 4：十分達成できている。 3：おおむね達成できている。
2：やや不十分である。 1：不十分である。

- ① 評価点のゴシック数字は%です。（概数ですので合計が100にならない場合もある。無記入もある。）
② 評定(ABCD)は評価点4と3の%の和を基に算出しています。

A:継続(80%以上) B:定着策の検討(79%~60%) C:改善策の検討(59%~50%) D:抜本的な改善策の検討(49%以下)

※ 評価点の%は上段の細字が1回目、下段太字が今回の結果。

番号	桜養プラン	令和2年度の目標	評価点			
1	人権尊重に基づいた指導態勢を整えるとともに、教育相談等を通じて児童生徒や保護者の思いを深く受け止め、発達段階や特性に応じた丁寧なかかわりを進めている。	(1) 児童生徒の人権を尊重した言動に心掛け、丁寧なかかわり合いを進める。 <i>評定A</i>	4 26 25	3 73 71	2 1 1	1 0% 0%
		(2) 児童生徒・保護者の思いを受け止める教育相談や情報交換に努める。 <i>評定A</i>	4 28 28	3 67 64	2 5 6	1 0% 0%
2	危機管理マニュアルの整備と具体的な対応の習熟を図るとともに、ヒヤリハットを早期に共有化し、学部間における系統的な指導の下、危険の防止・予知・回避能力の育成に努めている。	(1) 教職員全員がマニュアル等を理解し、有事に備える意識と実践力を高める。 <i>評定A</i>	4 13 18	3 81 72	2 6 6	1 0% 0%
		(2) ヒヤリハット事例を共有し、一人一人の実態に応じた指導や環境設備に努める。 <i>評定A</i>	4 27 36	3 69 56	2 5 3	1 0% 0%
3	自分の命と健康を大切にする指導を充実し、健康の保持増進と安心・安全な施設設備の整備に努めるとともに、保健指導・安全指導の充実を図っている。	(1) 健康な体づくりのために、養護教諭や栄養教諭、関係する係との連携を深める。 <i>評定A</i>	4 45 45	3 54 51	2 1 2	1 0% 0%
		(2) 安心・安全な校内環境を整え、病気やけがを未然に防ぐための環境整備に努める。 <i>評定A</i>	4 24 32	3 66 64	2 11 1	1 0% 0%
4	保護者、看護師、主治医、療育機関などとの連携の下、医療的ケアと訪問教育等の更なる充実を図るとともに、自立活動や各教科等を合わせた指導の専門性を高めるための研修を深めている。	(1) 医療的ケア、訪問教育に関する情報を学校全体で共有し指導の充実を図る。 <i>評定A</i>	4 29 40	3 67 55	2 4 1	1 0% 1
		(2) 自立活動に関する研修を充実し教職員の個々の実践力を高める。 <i>評定A</i>	4 24 20	3 74 70	2 2 7	1 0% 1
5	個別の教育支援計画及び指導計画のPDCAサイクルを充実し、授業等への活用を促進するとともに、一人一人の合理的配慮を明確にし、個のニーズに応じた支援の充実に努めている。	(1) 一人一人のニーズを多面的かつ的確にとらえ、具体的な目標設定と実践に生かす。 <i>評定A</i>	4 27 23	3 73 70	2 0 3	1 0% 0%
		(2) 実践を踏まえ、個別の教育支援計画及び指導計画の改善につなげる。 <i>評定A</i>	4 27 23	3 73 69	2 0 5	1 0% 0%
6	キャリア教育の段階や指導の観点をもとに、学部・学級間の交流や合同学習等を充実し、児童生徒一人一人の夢や希望を大切にしたい系統的かつ継続的な進路指導を進めている。	(1) 児童生徒の実態に応じ、将来の家庭生活や職業生活につながる実践を展開する。 <i>評定A</i>	4 21 20	3 70 69	2 9 7	1 0% 0%
		(2) キャリア教育における小・中学校の系統的な指導について実践研究を深める。 <i>評定A</i>	4 14 17	3 67 63	2 20 15	1 0% 0%
7	幼・保・小・中・高等学校などへの支援の充実や交流及び共同学習、ボランティア活動などを継続し、センター的機能の充実やインクルーシブ教育社会の実現に向けた取組を継続している。	(1) 実態に応じた交流及び共同学習等がなされ、相互にかかわり合う経験を深める。 <i>評定A</i>	4 17 20	3 51 64	2 30 11	1 1% 0%
		(2) 地域の学校等の実情に応じたセンター的機能が発揮され相互の教育効果を高める。 <i>評定A</i>	4 19 24	3 68 62	2 13 9	1 0% 0%

8	教師一人一人が個別の研究テーマを明確にし実践することで、自らの専門性を高めるとともに、学校の課題や時代の要請に応じた全体研究テーマについて研究の深化を図っている。	(1) 年間の個人テーマを設定した上で実践を継続し、自らの専門性を高める。 <i>評定A</i>	4 23 17	3 72 76	2 5 3	1 0% 0%
		(2) 全体研究テーマが目指す内容を学校全体で共有し、自主的な参画に努める。 <i>評定A</i>	4 27 26	3 72 63	2 1 7	1 0% 0%
9	新学習指導要領を踏まえた教育課程の編成及び実践に取り組むとともに、知的障害・肢体不自由・重度重複障害教育に関する専門的、多面的な指導法改善を進めている。	(1) 実践を重ねながら指導内容、計画等の改善を継続し、次年度の編成につなげる。 <i>評定A</i>	4 23 22	3 73 72	2 4 3	1 0% 0%
		(2) 経験者研修等を活用しながら授業研究を充実し、お互いの指導力向上に努める。 <i>評定A</i>	4 20 22	3 76 68	2 4 2	1 0% 0%
10	保護者や地域、関係機関等との連携を深め、開かれた学校づくりに努めるとともに、校内外の学校評価を計画的・効果的に進めることで、具体的な改善を図っている。	(1) 学級通信等で保護者への情報提供を行うとともに教育相談等を継続する。 <i>評定A</i>	4 35 48	3 63 51	2 3 1	1 0% 0%
		(2) 学校内及び外部評価を計画的に工夫しながら実施し、改善につなげる。 <i>評定A</i>	4 23 28	3 76 69	2 1 3	1 0% 0%
11	「業務の簡素化」「業務の効率化」「業務改善の意識化」を踏まえた業務改善を進めている。	(1) 「1 Action 1 Try」を設定し、業務改善を意識して業務に取り組む。 <i>評定A</i>	4 21 29	3 73 68	2 6 3	1 0% 0%
		(2) 校務分掌業務の簡素化と効率化に取り組み、授業準備の時間確保に努める。 <i>評定A</i>	4 24 28	3 72 62	2 5 10	1 0% 0%
12	南部地区特別支援学校新築移転に向けて、関係機関と連携しつつ諸課題に取り組むとともに、武岡台養護学校高等部支援教室との接続や連携を深めている。	(1) 高等部の教育課程編成、学校建設関係、物品仕分け等の業務を計画的に進める。 <i>評定A</i>	4 14 20	3 74 68	2 12 10	1 0% 0%
		(2) 南部支援教室との交流を推進し双方向の学習効果を高める実践に努める。 <i>評定A</i>	4 18 20	3 74 71	2 8 8	1 0% 1%